

胴体の接着手順

(胴体の材料に曲面を付けてから)

- ※ 曲面を接着する時は接着剤を付けてから、必ず丸棒等を内側に入れ、外側から指等で加圧して、のり代を完全に密着させる。接着剤の量はのり代より少しはみ出る位が良く、これで胴体の強度不足を防ぐことができます。
- ※ 胴体の曲り、ねじれ等は完成後修正することはできませんので、慎重に進めて下さい。
- ※ 胴体の曲面部分に誤って折り目をつけますと、そこに応力が集中して胴体破損の原因となりますので気を付けて下さい。

1. 胴体後部の円錐部分を接着する。この時、接着部分が一直線になっていること。
2. 前記の接着剤が硬化してから、断面の円形を補正し、部品②の胴体前部下面内側接合板を胴体前部下面の内側に接着する。
この時、後部胴体の円錐部分の基準線と前部胴体の基準線が四本共一直線であることを確認する。
3. 胴体前部上面（主翼取り付け部の前側）を接着する。
この時も、後部胴体の円錐部分の基準線と前部胴体の基準線が四本共一直線であることを確認する。
4. 前記の接着剤が硬化してから、断面の円形を補正する。部品④胴体前部側面補強板を胴体の曲面に合わせてから接着する。
5. 部品③操縦席風防を胴体の曲面に合わせてから接着する。
この時も、後部胴体の円錐部分の基準線と前部胴体の基準線が四本共一直線であることを確認する。
6. ここで主翼取り付け部を折り曲げる。
7. 全ての接着剤が硬化してから、射出把手の取り付け部を切り抜き、射出把手部分を完成させる。
8. 尾翼取り付け部をカッターで切り抜く。

- ※ 胴体完成後3~4日で接着剤の収縮で下側に反ります。
(この対応策は、またの機会にお話します。)

これらの手順は、立体胴制作の基本ですので、おぼえて今後応用されると良いでしょう。

FPAC 風間美大